

No. 1231

誓いに新たに

— 全国戦没者追悼式 —

第2次世界大戦の戦火がやみ、平和が戻ってから満32年、今年もまた終戦の日「8月15日」がやってきた。東京・九段の日本武道館では政府主催の全国戦没者追悼式が天皇陛下をお迎えして行われた。

式には各界の代表をはじめ全国の遺族代表約6,000人が参列、正午の鐘を合いずに全員が起立して黙とう。次いで天皇陛下のお言葉があり、衆参両院議長、最高裁長官が追悼の辞を述べた。最後に遺族を代表して、夫をテニアン島で失った沖縄県、北谷（チャタン）村の照屋 秀 さん（67才）が夫に語りかけるように追悼の辞を読んだ。この後、ベートーベン作曲の「英雄」の流れる中を献花、平和への誓いを新たにした。

1977年、有珠山噴火

「朝見ている時、爆発が始まった。いきなり、まっ黒の煙があがった」8月7日、北海道南部、洞爺湖や昭和新山に隣接する有珠山が爆発。爆発に伴う大量の火山灰で、家屋や農作物等に大量の被害が発生した。かき入れ時の洞爺湖温泉は人影もなくゴーストタウンの様相である。遊覧船やボートが浮ぶ美しい湖、洞爺湖は白く濁り、えさを失った白鳥は岸についたコケを必死でつく。ある農民は「もうどうしょうもないネ、このマメも少しでも息が出来るようにと気安めにやっているだけだ」被害は山や畑、牧場、そして海まで及んだ。噴火湾で養殖しているホタテ貝やアワビも窒息死している。この噴火による被害は現在判明しただけでも200億を越える。もちろん付近の交通網は全てストップし、訪れる観光客はいない。体育館に避難した住民は「いつ帰れるかわからないし、子供のことが心配だ」と語る。事態を重視した政府は異例の有珠山噴火対策の関係閣僚会議を開いた。現地の観測によれば今後も噴火のおそれがあるという。1977年、有珠山の噴火、今その被害は更に大きくなっている。